

佐野高校附属中 「科学の甲子園ジュニア全国大会」出場

佐野高校の若林仁瑛さん 高校生国際理解 弁論大会の全国へ

【佐野】県立佐野高校附属中の生徒6人(松葉伸一郎さん、丸山凱さん、水谷至温さん、新井逞さん、島田琉睦さん、立川璃空さん)が、12月3日行われた「科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場。また、同高校1年



附属中生徒たち

生の若林仁瑛さんが、10月29日、DVD審査で開催された「栃木県高等学校国際理解弁論大会」において、最優秀賞に輝き、来年夏の全国大会出場を決めた。

中学生6人と若林さん

んは、11月26日、同校の青柳育夫校長らと佐野市役所を訪問、金子裕佐野市長に出場報告を行った。

「科学の甲子園ジュニア全国大会」は、国立研究開発法人科学技術振興機構の主催で、科学好

きの裾野を広げ、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材の育成を目的に実施されている。

8月に行われた

県大会では、物理、化学、生物、地学、数学、情報分野の筆記競技6種目で6人がそれぞれ1種目を担当。大会に向け、みんなで勉強会を開き、切磋琢磨してきた成果を発揮した。

チームキャプテンの松葉伸一郎さん(2年)は「県大会では、みんなが自分の担当科目に集中して取り組みました。相談し、フォローできたことが良かったと思います。全国出場は信じられませんが、率直にうれしかった」と話す。

「県高等学校国際理解弁論大会」で最優秀賞を受賞した若林仁瑛さんは「パーム油と森林破壊」と題して発表。環境問題を解決するのは、人類一人ひとりの行動が重要、世界規模で連

携し、解決する仕組みを構築しなければならぬと訴えた。

かなりの時間をかけて原稿を書き上げたという若林さんは、「県大会はDVD審査でしたが、6、7分の時間の中で、どうすれば自分の一番伝えたいことを伝えられるのが難しかったです。地球温暖化が進み、森や自然が破壊されていくことについて、個人個人がどう認識して、国としてどう取り組むのかを考えてほしいと思います」と語る。

若林さんは、来夏、東京で開催される全国高校総合文化祭・弁論部門に県代表として出場する。



若林さん(右から2番目)